

★ポスターセッション参考資料：過去の審査員からのコメント&評価ポイント

●過去のポスターセッションでの審査員のコメント（一部抜粋）

選んだ国際課題についての強い関心、「現状を変えたい！」という熱意はよいプレゼンをつくる条件になると思います。皆さんが、解決に向けて（インタビューなど）何か行動をして、そこで聞いたこと・感じたことをもとに分析や提案がされていると、ポスターセッションを見る相手にもわかりやすく、心に響く発表ができると思います。

このような探求活動に一番大切なところは「問い」だと思っています。

アイデアに気持ちが向いてしまうかもしれませんが、より大切なのは「問い」です。

皆さんが、何に疑問を感じ、何が課題だと感じ、何をどのように変えたいと考えるのか、深く深く考えていけば、おのずとよいアイデアがわいてくるのではないのでしょうか。

皆さん自身が強い関心をもって、「面白い！」と思って探求しないと相手にはなかなか響きません。その部分を皆さんの熱意や行動や分析でみせてください。期待しております。

●自分が解決しようと考えた問題・テーマについて、深く、深く、掘り下げる

当事者は問題を自分たちで解決できる力を持っているはず。それを妨げている要因は何だろう？ どうすれば彼らがその力を発揮できるのか。渦中にある当事者に敬意を持ち、対等なパートナーとして、自分たちの未来と一緒に変えていこうとする視点があるだろうか？

何かを持っている私たちが、何も持たない彼らに支援の手を、という発想ではもうない。

持続可能な世界を考えるならば、全てが“日本のように”なればよいというものでもない。世界の課題の原因は、抑圧されて力をもてなくされた人の側ではなく、実は経済的豊かさを求める先進国側にあるのでは…という視点もあるかもしれない。

●皆さんが出会ったテーマと気持ちを大事に！

きっかけはどんな些細なことでも構わない。小さな問題でも、大きな問題でも、かまわない。

ただ、皆さんが選んだテーマ、テーマを選んだ気持ちは何だったか。「なぜ自分にとって大事なテーマなのか」「なぜこれを他の人に伝えたいと思うのか」高校生の皆さんの視点で面白いと思った発想はどこか、自分が興味を持った、心動かされたのはどこか、そのポイントを大切に。

●自分たちも世界の問題の当事者として

自分たちの生活と世界の課題がどうつながっているのか？ 自分自身の行動を変えることで変化を起こせないか？ 自分たちからはじめて、友人や企業・国…働きかけることはできないか？

・実現可能性：本当に実現できる？…本当にできるだろうか？ 実現のためにはどうするのか？ を考えてみる。自分の行動から、同世代を巻き込む良い方法はないだろうか？

・当事者としての目線：高校生の視点での斬新なアイデア！…自分たち高校生に理解や活動を広げるはこんなアプローチが有効！ など、自分が、同世代の高校生が興味を持てる、ひと工夫があるのでは？